

オクラ（品種：アーリーファイブ）

東葛飾農林振興センター

1 地区名（集団名）

船橋市古和釜地区

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 5戸
- (2) 栽培面積 31a
- (3) 収穫量又は出荷量 31,953袋（100g/袋） 10,307袋/10a（100g/袋）
- (4) 出荷先又は販売方法 市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	2回	3回
化学肥料（窒素分量）	0kg/10a	11.5kg/10a

4 事例のあらまし

船橋市の一部では、夏場の換金作物として数年前からオクラが栽培されていました。

現地では、農薬の使用回数やたい肥の施用、化学肥料由来の窒素施用量ともにちばエコ農産物の認証基準に近い栽培が行われていました。

そこで、消費者に対して船橋市産オクラの安全性をアピールし、消費者へ安心を届けるとともに、流通・販売での評価を高める目的で、5人の生産者が集まりちばエコ栽培を開始しました。

土壌診断結果をもとに、もみ殻、鶏ふん、おから等の完熟たい肥とちばエコに対応した専用肥料を用いた無駄のない土づくり・施肥を行うとともに、防除では、センチュウ対策など、生育初期以外は農薬を使用しない栽培により、ちばエコ農産物の認証基準をクリアし、その結果、JA市川市船橋地区において7品目めの「ちばエコ農産物」として認証されました。

5 背景・動機

農産物の産地偽装や残留農薬問題などを背景に、食の安全・安心を求める消費者は確実に増加しています。農産物の安全性を確保し、消費者の不安を払拭するために、JA市川市では数年前より「もっと安心農産物生産販売運動」、「ちばエコ農産物」の認証に、生産者とともに積極的に取り組んでいます。

ちばエコ農産物の認証を推進することにより、生産履歴記帳などによる安全を担保し、船橋市農産物のブランド力の強化を進めて来ました。取組開始時点で、にんじん、だいこん、こかぶ、こまつな、えだまめ、水稻の6品目がちばエコの産地指定を受けていました。

オクラについては、栽培品目が少ない夏場の収入源として、7～8年ほど前から地域内で栽培が始まっていました。ちばエコ認証を受けることで消費者に安全・安心をアピールし、市場での販売単価の向上も期待できると生産者に呼びかけたところ、5名の生産者から賛同が得られ、栽培を開始しました。



オクラ栽培5人のメンバー



袋詰めされた船橋市産のオクラ

6 栽培方法

(1) 土づくり・施肥

もみ殻に鶏ふん、おから等を混ぜて発酵させ、切り返して完熟したものを、年1回畑にすき込み、土づくりをしました。基肥となる有機配合肥料については、農協と肥料メーカーが共同で製造したちばエコ農産物栽培基準に対応した専用のものを使用しています。

また、土壌診断の結果に基づいて、無駄のない施肥を行うように心がけています。

(2) 播種

湿害対策として、15cmほどの高うねにして、地温上昇と雑草防除をかねて有孔黒マルチ（幅95cm、株間30cm、直径5cm、1条）を張ります。種は一穴に2粒播きします。収穫作業を考慮して通路は広めに取ります。

(3) 防除

センチュウ対策として農薬を1回使用します。その後は病害虫の発生状況を見ながら統一栽培暦の範囲内で農薬を使用しますが、生育初期以外は基本的に農薬は使いません。株が小さい間は、うね間に雑草が生えてくるので、中耕除草機で耕しました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年12月10日
耕起・施肥	平成20年 5月15日
播種	5月19日
病害虫防除	5月15日、6月23日
中耕除草	7月 1日
収穫開始	7月21日
収穫終了	10月10日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
もみ殻鶏ふんたい肥	平成20年 4月20日	1.5t		
船橋オール有機配合 (6:7:2)	5月15日	140kg	8.4kg	0kg
苦土重焼燐 (0:35:0)	5月15日	40kg		
苦土セルカ2号	5月15日	40kg		
合 計			8.4kg	0kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	平成20年5月15日
アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類・アザミウマ類	6月23日

7 今後の展望等

平成20年の栽培では、生育初期にアブラムシが発生した以外は特に大きな問題は発生しませんでした。平成19年の栽培では一部のほ場で疫病が発生し、大幅な減収になりました。ちばエコ基準では化学合成農薬使用回数が3回と少ないので、連作を避け、病害虫の発生状況をよく観察しながら適期防除に努めて品質の良いオクラ生産を進めていきたいと考えています。

現在の販売先は市場一社のみのため、九州、沖縄産との競合もあり十分な単価が得られているとはいえません。また、出荷にかかる経費が意外とかかっています。地元の船橋市は人口60万人近くを抱える大消費地なので、安全・安心なちばエコオクラを、地元消費者へ提供することも、今後検討していきたいと考えています。